

新収蔵資料紹介



「鷲図」絹本墨画 163.6×71.0

中濱松香 作 安政4～大正10 (1857～1921)

中濱松香は、明治・大正期にかけての画家。父祖3代にわたる画家の家系に生まれた。内国勲業博覧会や内国絵画共進会などに出品、明治30年頃には、「北陸絵画協会」に参加し山田敬中らと地方画壇の推進役をつとめた。

本作品においても、鷲の姿に見られる迫真性や周囲の樹木等の生き生きとした筆使いにその技量を充分うかがうことができる。

「創立六拾周年記念祝賀之詩」紙本墨書 136.5×48.5

蘇岳 筆

本作品は石川県師範学校創立60周年を記念して書かれ贈られたもの。

覺風本至純。經武与明倫。得業七千士。年光六十春。
譽聲天下轟。師弟水魚親。聖帝台臨迹。靈松瑞色新。

「パンテオンの見える風景」油彩 30号

北濱 淳 作 大正7～ (1918～) (元教育学部教授)

氏はもと光風会に所属し、日展に31回連続入選、「黄衣の少女」で特選を受賞。この「パンテオンの見える風景」は、氏が1年間フランスで研究生活を送ったとき描いたもので、画面には素早い筆勢と絵具の盛り上げが見られ、マチエールを効果的に生かした充実した作品と考えることができる。

